

H30. 7. 12(木)15:45~17:15

救急処置講習会

授業中や部活中、突然起こる事故に対応するために必要な救急法を学びました。

<概要>

場 所:大会議室

内 容:講義と実習(心肺蘇生法、AEDの取り扱い方、熱中症とは)

講 師:小松中消防署員

受講者:生徒保健委員13名、部活動部員14名、教職員5名

<内容報告>

1. 熱中症講義

- ・熱中症予防には
OS1(経口補水液)
スポーツドリンク
麦茶 　　　　　 など
※一気に飲むのではなく少しずつ飲みます。

- ・熱中症のような人を見かけたら
日陰など涼しい場所へ移動する
衣服を脱がして身体を冷やす
水分と塩分を補給
先生など近くの大人に知らせる

- ・水分を自分で飲めない場合は、無理やり飲ませてはいけません。

- ・意識がはっきりしない、全身けいれんしている、嘔吐している

⇒ これらの症状があればすぐに救急車を！！



身体を冷やすには、
大きな動脈(首、脇、足の付け根など)
を氷嚢や濡れタオルで冷やす。
水をかけてあおぐ。



2. 心肺蘇生法、AEDの取り扱い方 実習

2つの班に分かれ、実際に心肺蘇生法、AEDの取り扱いを教わりながら、実践しました。

●手順●

① 周囲の安全確認



② 意識の確認



③ AEDと救急車の要請



④ 呼吸の確認、胸骨圧迫



⑤ AED装着・実施



周囲の安全を確認した後、倒れた人の肩を叩きながら意識の確認をします。「大丈夫ですか?」「聞こえますか?」
反応がなければ意識なしと判断。
近くの人に声をかけ、救急車の要請とAEDを持ってきてもらえるようお願いします。

胸や腹の動きで、
呼吸の有無を確認します。

呼吸なしの場合、
胸骨の位置を確認して、
胸骨圧迫を開始します。

1分間に100~120回の
ペースで圧迫します。

5cm押すには、意外と力が要りますね。





AEDの使い方も学びました。
AEDは、心臓がけいれんして血液を送り出せなくなっている状態を取り除く機械です。
AEDが届いたら、電源をONに。
アナウンスに従って
パッドを、心臓を挟むように
右鎖骨上と左わき腹に貼ります。

AED使用中も、
胸骨圧迫は続けます。
ただし、心電図を解析している時は触れないでください。
「電気ショックが必要です」とアナウンスがあったら、
周りの人に離れるように指示し、
通電ボタンを押します。
その後も救急隊に引き継ぐまで、
胸骨圧迫を続けます。



ちなみに今回参加した生徒で、

小松高校のAED設置場所を知っている人は、

まさかの 0人 でした。

毎年、入学してすぐのオリエンテーションで全員に説明しているのに……。



AEDは、第一体育館の入り口にあります。ぜひ覚えておいてね！

実際に救急の場で働いている方から、経験なども交えた講義や、実習の指導を受け、生徒たちも真剣に学ぶ様子が見られました。